

地方總監府官制外二件審査報告

昭和二十年六月五日

委員長

清水副議長

委員

窪田顧問官

南

青

山

茶良顧問官

小幡顧問官

三土顧問官

百武顧問官



セル所歟カラザルモノアリ仍テ政府ニ於テハ  
先般地方協議會長タル地方長官ノ地位ヲ高ム  
ルト共ニ之ノ軍管區司令官及鎮守府司令長官  
等トノ間ニ緊密ナル連繫ヲ採ラシメ以テ更ニ  
一層其ノ成果ヲ發揚セシムルニ努力シ來レリ  
然ルニ今ヤ戰局愈々危急ヲ告グルニ當リ陸海  
軍ト密接ナル連繫ノ下各地方毎ニ臨機適切ナ  
ル措置ヲ爲シ得ル強靱ナル國內體制ヲ整備確  
立スルハ眞ニ緊切ノ要事タルニ至レルヲ以テ  
最早現行地方行政協議會制度ノ如キ協議制度

ヲ基礎トスル組織ヲ以テシテハ到底此ノ緊迫  
セル局面ニ即應スルニ充公ナラズ是非トモ地  
方各般ノ行政ヲ一層強力ニ把握推進セシメ緊  
急ノ場合中央ニ代リテ管下各地方機關ヲ完全  
ニ一體的ニ統轄運營シ得ルガ如ク其ノ機構權  
限等ヲ充實強化スルノ要アリ仍テ今回政府ニ  
於テハ從前ノ地方行政協議會ヲ廢止シ全國八  
地域ニ對シ新ニ地方總監府ヲ設置シ各地方ニ  
於ケル各般ノ行政ヲ眞ニ強力ニ統轄運營セシ  
ムルト共ニ中央ノ權限ヲ廣ク之ニ委讓シ以テ



敏速機宜ノ措置ヲ執ルコトヲ得シメ當面セ  
ル事態ノ急ニ應ゼシメントシ茲ニ本集三件ノ  
勅令ヲ起草シ本院ノ詢議ニ付セラレタルモ  
ナ  
次ニ本集各件ノ要旨ヲ述ブレバ左ノ如シ

第一 地方總監府官制

(一) 地方總監ハ大東亞戰爭ニ際シ地方ニ於テ  
ル各般ノ行政ヲ統轄シ法令又ハ特別ノ委  
任ニ依リ其ノ職權ニ屬スル事務ヲ管理ス  
ルモノトシ地方總監府ノ名稱位置及管轄

區域ハ別表ノ通トス(第一)

別表ハ議案ニ付參看ヲ請フ

(二) 地方總監府ニ通ジテ親任ノ地方總監八人  
勅任ノ地方副總監六人參事官專任三十人  
ノ外奏任ノ祕書官副參事官事務官及判任  
ノ屬各々專任若干人ヲ置キ地方副總監ハ  
北海及口國兩地方總監府ニハ之ヲ缺クモ  
ノトシ地方總監地方副總監及祕書官以外  
ノ職員ノ各地方總監府ニ於テル定員ハ内  
務大臣之ヲ定ム(第二)

(三) 地方總監ハ行政全般ノ統轄ニ付テハ内閣  
總理大臣ノ指揮監督ヲ内閣又ハ各省ノ主  
務ニ付テハ内閣總理大臣又ハ各省大臣ノ  
指揮監督ヲ大々承クルコトトシ地方總監  
府ニ關スル事務ハ内務大臣之ヲ統理スル  
モノトス(第三條及  
第四條)

(四) 地方總監ハ(イ)其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ  
依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ地方總監府  
令ヲ發シ之ニ三月以下ノ懲役若ハ禁錮拘  
留百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附ス

ルコトヲ得ヅク(ロ)非常急變ノ場合ニ臨  
兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルト  
キハ當該地方ノ陸海軍ノ司令官ニ移牒シ  
テ出兵ヲ請フコトヲ得ルモノトシ(ハ)所部  
ノ官吏ヲ指揮監督シ高等官ノ功過ハ内務  
大臣ニ具狀シ判任官ノ進退ハ之ヲ專行ス  
ルコトトシ(ニ)勅令ヲ以テ指定スル地方官  
衙ノ長ヲ指揮監督シ其ノ功過ハ當該官衙  
ノ所管大臣ニ具狀シ右地方官衙ノ長ノ命  
令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ

又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ  
其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スル  
コトヲ得ベク(其ノ職權ニ屬スル事務ノ  
一部ヲ前記地方官衙ノ長ニ委任スルコト  
ヲ得ルモノトス(第五條乃至第十條))

(五) 地方總監府ニ總監官房及所要ノ部ヲ置キ  
部長ハ參事官ヲ以テ之ニ充テ總監官房及  
各部ノ事務分掌ハ内務大臣之ヲ定ム(第十一條)

(六) 地方副總監以下ノ職員ノ職務權限ヲ定ム  
(第十一條第十一條)

(七) 地方行政協議會令、地方參事官等臨時設置  
制及地方行政協議會長シル北海道廳長官  
及府縣知事ノ官等俸給等ニ關スル規程ハ  
之ヲ廢止シ竝ニ本令施行ノ際ニ於ケル職  
員ニ付經過の規定ヲ設ク(附則第四項)

### 第二 地方總監ノ監督ニ關スル件

本件ハ内閣總理大臣及各省大臣ノ地方總監  
ニ對スル監督權ニ付規定シタルモノニシテ  
即チ(一)内閣總理大臣又ハ各省大臣ハ所管又  
ハ主任ノ事務ニ付地方總監ヲ指揮監督シ若



シ其ノ命令又ハ處方ノ成規ニ違ヒ、公益ヲ害  
シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ  
之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得ベク(二)各  
省大臣ハ主任ノ事務ニ付地方總監ニ指令又  
ハ訓令ヲ下スコトヲ得ルモノト爲スニ在リ

第三 昭和二十年勅令第三百二十三號官吏及  
官吏待遇者ノ懲戒手續等ニ關スル戰時  
特例ノ件中改正ノ件

現行規定ニ依レバ大東亞戰爭中本屬長官ハ  
委任官以下ノ官吏又ハ官吏待遇者ニ對スル

減俸謹慎又ハ譴責ノ處分ノ職權ヲ其ノ者ノ  
所屬廳ノ長ニ委任スルコトヲ得ルモノトセ  
ルガ今回地方總監府官制制定ニ關聯シ本件  
ヲ以テ標記勅令ニ改正ヲ加ヘ右ノ所屬廳ノ  
長ノ外其ノ上級廳ノ長ニモ委任スルコトヲ  
得ルモノト爲サントス

審査委員會ニ於テハ本案ノ地方總監府官制ニ  
付審議中地方總監府ノ管轄區域廣汎ニ過ギ殊  
ニ東海北陸數縣ヲ連ネテ一管區ト爲スガ如キ  
交通關係ヨリ看テ妥當ナラザルヤノ疑念アリ

ト爲シ管轄區域ヲ定メタル根據ニ付質問アリ  
タルニ對シ政府當局ヨリ此ノ管轄區域ハ現在  
ノ地方行政協議會ノ地方區分ヲ其ノ儘踏襲シ  
大體陸軍軍管區ト一致セシムル方針ニ據リタ  
ルモノニシテ軍事上、交通上及經濟產業上ノ各  
觀點ヨリ見テ此ノ區分ヲ以テ最モ適當ナリト  
認メタリトノ答辯アリタリ

按ズルニ戰局ノ現段階ニ鑑ミ及ビ其ノ將來ニ  
具ヘ地方毎ニ綜合行政力ノ強化ヲ圖リ以テ國  
内體制ヲ整備スルハ現下緊切ノ要務ニ屬ス本

案ノ地方總監府官制ハ實ニ右ノ要諦ニ自應セ  
ントスルモノニシテ即チ現行ノ地方行政協議  
會ノ制度ヲ一層強化擴充シ地方官衙ノ上級官  
廳トシテ地方總監府ナル臨時官府ヲ新設セン  
トスルモノニシテ機宜ノ措置タルヲ失ハズ乃  
チ右官制案ハ之ニ關聯スル爾餘ノ二件ト共ニ  
其ノ趣旨ニ於テ是認スベク其ノ條項ニ於テモ  
別ニ支障ノ虞ヲ認メズ仍テ審査委員會ニ於テ  
ハ本案ノ三件ハ孰レモ此ノ儘可決セラレ然ル  
ベキ旨全會一致ヲ以テ議決シタリ



右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和二十年六月五日

審査委員長

樞密院副議長

清水

澄

審査委員

樞密顧問官

窪田静太郎

樞密顧問官

南

弘

樞密顧問官男爵奈良

武次

樞密顧問官

小幡

酉吉

樞密顧問官

三土

忠造

樞密顧問官

百武

三郎

樞密院議長男爵平沼騏一郎殿

昭和二十年六月二十九日立案

書記官長 

主筆 書記官 

書記官 

文部省官制中改正ノ件審査報告

(別紙ノ通り)